

「薬剤管理の見直しと取り組み」

-調剤薬局との連携による一考察-

アクアビット・ファクトリー株式会社

包括ケアステーション ベルカナ

加藤 由美、都竹 舞、佐々木 千香子

取り組んだ背景

当事業所の名称は「看護小規模多機能型居宅介護」と
「有料老人ホーム」の複合型の施設である。

- 1.利用者により薬剤の持ち込み状況や管理方法が異なる
- 2.薬剤管理の工程数が増え煩雑になっている

→今回、調剤薬局と契約している利用者を対象に
薬の管理方法を見直し、業務の効率化に取り組んだ。

目標

利用者の確実な内服を継続しつつ、
薬剤管理の効率化を実現する。



以前までの管理方法

- 朝・昼・夕・睡前の各々が日付順に並べて管理されている。
- 配薬BOXが朝・昼・夕・睡前で分かれている。



内服薬管理BOX



配薬BOX

以前までの管理方法

- 日付や服薬タイミングは薬包の記載を確認するしかなかった。

内服藥確認表

方法

	調剤薬局	看護師
1	一包化の袋を朝・昼・夕・睡前の順番で1つに繋げて準備してもらう	調剤薬局が繋げて作成した薬を1日のセット分に切り離して管理する
2	配薬BOXと同様に薬包に色を付けてもらう	配薬BOXと同様に内服薬確認表にも色を付ける

実践の内容(方法1)

薬包を朝・昼・夕・睡前の順番で
1つに繋げて作成する。

薬局で繋げて作成してもらった
薬を1日のセット分に切り離して
管理する。



1つの薬袋で管理するため、袋から取り
出す手間が減った



配薬の際に取り出す回数が1度で済む
ようになった。



実践の内容(方法2)

配薬BOXと同様に、内服薬確認表と薬包に同じ色を付ける。



色をつけることで、配薬間違いに視覚的にも気が付きやすくなった。



成果

薬剤管理の工程数が、最大12工程から3工程に減少した。

最後に

今回、このような業務改善を行えたことは、普段から調剤薬局とコミュニケーションを取ることが出来ていたからではないだろうか。お互いの立場から、実現可能性を確認し合いながら取り組んでいくことが大切なのだと感じた。

この取り組みで得られた気付きは、調剤薬局だけでなく、他職種と関わる際にも活かすことができると考える。

医療の視点で生活をアセスメントできる看護師が他職種に働きかけることにより、利用者のQOL向上にも繋がると考えられる。今後も他機関及び他職種と円滑にコミュニケーションを取れるような知識と視座を磨きながら、日々の業務に取り組んでいきたい。